

越南246号の品種特性と栽培法

1 はじめに

越南246号は、アミロース含有率が低く、大粒であるという、従来品種にない特徴を有する品種です。この品種の収量、品質安定栽培法を開発しました。

2 品種特性

- ①千粒重は約30gで、粒も大きい(表1、写真1)。
- ②低アミロース品種(アミロース含有率:約9%)だが、もち臭はほとんどない。
- ③炊飯米の粘りは強く(図1)、冷めても硬くなりにくい。
- ④成熟期は、日本晴より約8日遅い(表1)。
- ⑤穂数が少ない穂重型品種であり、収量は、日本晴に比べ、やや少ない(表1)。
- ⑥倒伏に強い(写真2)。

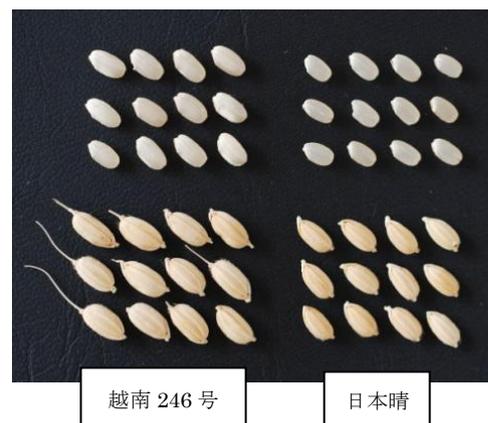


写真1 粳・玄米

表1 越南246号の特性(H24、H25の平均)

品種・ 系統名	出穂 期	成熟 期	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)	アミロース 率(%)
越南246号	8/8	9/28	92	316	623	31.3	8.6
日本晴	8/6	9/20	87	408	642	22.3	17.3

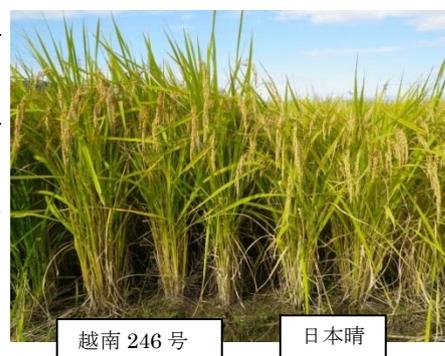


写真2 成熟期の状況

3 用途

- ①栄養価の高い“胚芽米”に適する(表2)。
- ②米粉パン(通常の米粉パンより、時間がたっても硬くなりにくい)。

表2 成分分析結果

	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンE (mg)	食物繊維 (g)
越南246号 (胚芽米)	0.31	0.02	0.9	1.2
(参)普通精米	0.08	0.02	0.2	0.5

普通精米は5訂日本食品標準成分表より引用。

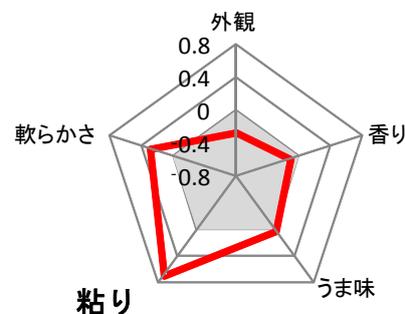


図1 ご飯の特徴
(コシヒカリと比べて)

4 栽培方法

(1) 浸種・催芽・・・種子の休眠が深いので、出芽揃いをよくすることがポイントです。

- ・ 3月下旬の浸種なら、15日程度と通常の品種より長めに行い、十分に吸水させます。
- ・ 催芽は30℃、1日が目安です。

(2) 播種量・・・大粒であり、乾粒で160g/箱が目安です。
(コシヒカリなら120g/箱まきに相当)

- ・ 播種後は育苗器に入れ、均一な出芽を促します。

越南 246 号の播種量が多いように見えますが、どちらも播種粒数は同じです。

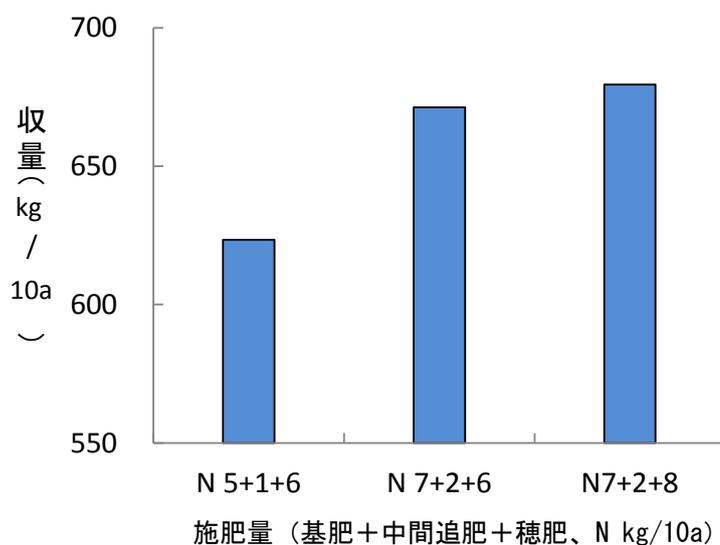


写真3 播種量

(3) 施肥基準・・・従来品種に比べ、多肥栽培とします。

栽植密度・・・坪 70 株植えが基本です。

①分施なら、基肥 N 7kg/10a + 中間追肥 N 2kg/10a + 穂肥 N 3+3kg/10a



・ N 7 + 2kg/10a で増収します。

・ 密植では品質が低下しますので、注意しましょう

図2 施肥量と収量との関係(分施、H25)

②一括肥料なら、N 16kg/10a を基準とします。

※ あきさかりの直播一括肥料を使用します。

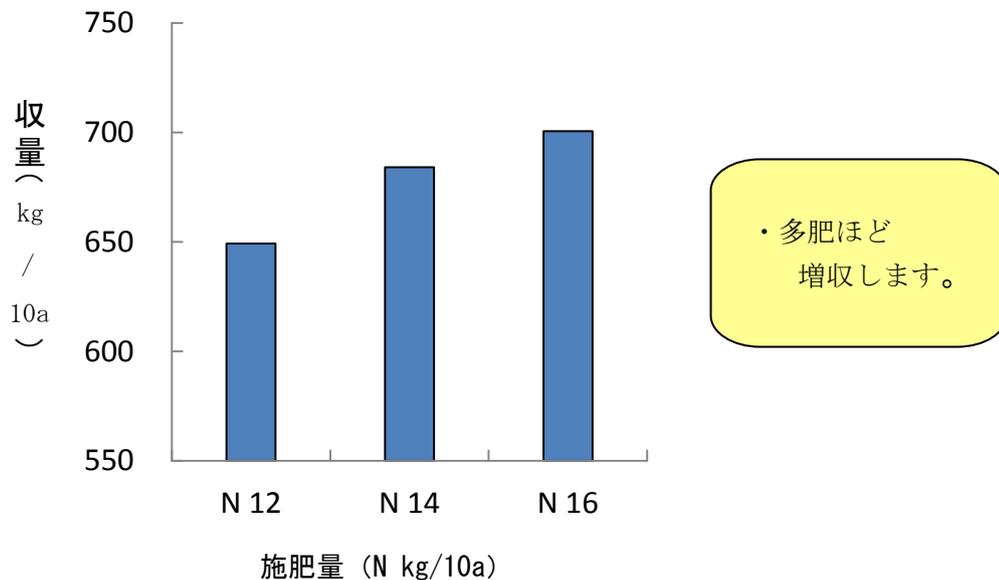


図3 施肥量と収量との関係（基肥一括、H25）

(4) 田植え・・・5月中旬までに終わらしましょう。

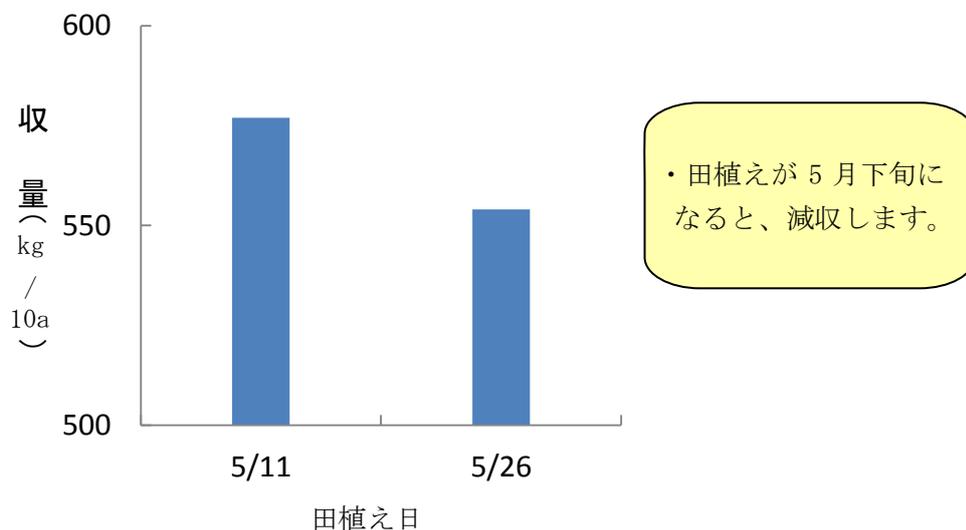


図4 田植え日と収量(H23)

(5) 水管理

①生育初期・・・湛水して、分げつの発生促進を！

※ 穂重型品種であることから、茎数、穂数確保が増収に重要です。

②中干し・・・1株15本で中干し開始です。

※ 湿田では大きいひびが入ったら、乾田では足跡に水が残る程度になったら、入水です。中干しが不十分だったり、過度に実施すると、胴割米が出やすいので、注意しましょう。

③中干し後

収穫間際まで、間断通水を継続しましょう。

※ 大粒であることから胴割米が発生しやすく、黒点症状米も出やすいことから、水管理には収穫直前まで気をつけましょう。



生育初期（5月下旬）の水田

(6) 病害虫防除・・・斑点米カメムシ対策、ニカメイチュウ対策を徹底しましょう。

①斑点米カメムシ対策・・・穂揃い期とその10日後の

計2回の粉剤を散布しましょう。

※ 粒剤+粒剤、粒剤+粉剤の組み合わせでも可能です。粒剤は、薬剤によって処理日が異なるので注意しましょう。粒剤や粉剤の1回処理では1等米になりません。

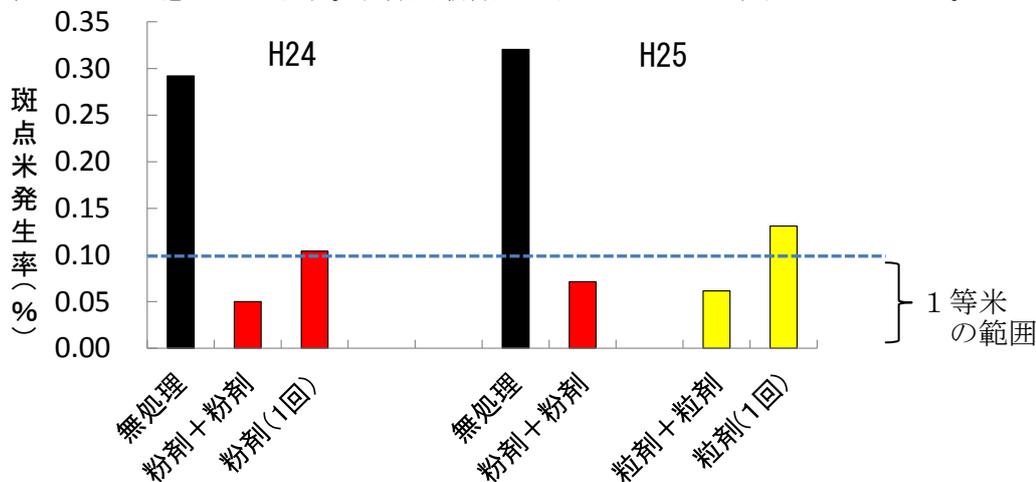


図5 斑点米カメムシの防除方法と斑点米発生率

②ニカメイチュウ対策・・・移植時の箱施薬を実施しましょう。

※ 稈が太いことから、特にニカメイチュウの被害を受けやすい品種です。

※ ニカメイチュウは6月第3半旬（1化期）と7月第6半旬～8月第1半旬（2化期）に発生します。被害が認められる場合は薬剤を追加散布します。

※ いもち病・・・いもち耐性遺伝子を持っていますが、発生が認められたら防除しましょう。
常発地では特に注意して下さい。

- (7) 収穫・・・従来の品種より早めに。
 ・ 籾水分 27% (青籾残存率 12%程度)
 で収穫します。

籾水分が 27%以下になると
 胴割米が急激に増加します。

4

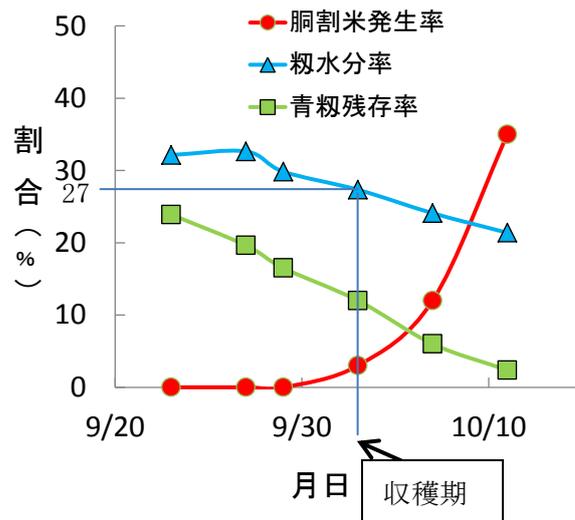


図6 立毛中の籾水分率、
 青籾率と胴割米発生率 (H23)

- (8) 乾燥、調製・・・ゆっくりと。
 ① 乾減率 (乾燥時の 1 時間当たりの籾水分減少率) は 0.6%/時間以下で乾燥しましょう。

※ 水分 27%→15%とするのに、
20 時間が目安です。

0.6%を超えると、
 胴割米が急激に増加します。

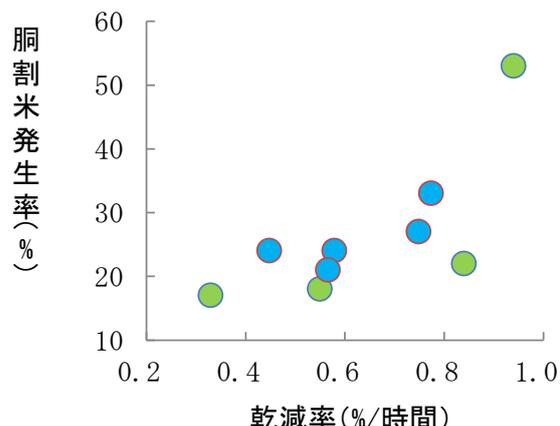


図7 乾減率と胴割米発生率
 (●H24、●H25)

- ② 籾摺り・・・胴割米の発生を減らすため、ロール間隙を広げ、1 時間あたりの仕上げ量を、標準より 10%程度減らしましょう。

4 留意点

- ・ 出穂後に入水が不十分だと、黒点症状米が発生します。極端な田干しは避け、収穫まで土が湿った状態を保ちましょう。

5 コスト面

多肥栽培ですので、肥料代が増えますが、増収効果が経費を上回り、収益は増加します。

[その他]

研究課題名：福井県にしかない加工用米による新商品の開発

研究期間：平成 23 年度～25 年度

研究担当者：農業試験場 ポストコシヒカリ開発部 清水豊弘・富田桂・田野井真・

酒井究・渡辺和夫・小林麻子・林猛・小木芳恵

有機環境部 細川幸一・渡辺貴弘

